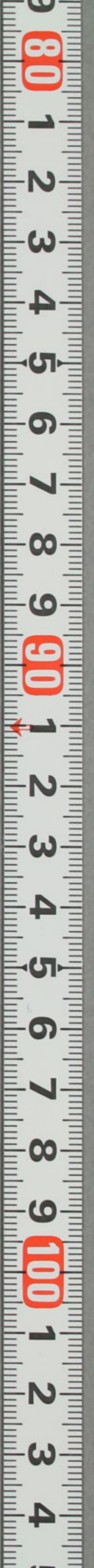


計法
比

好
文
法
集

特 別
~ 13
4362
2



買
 4362
 此 諸 國
 頃 好 色 遠 保 衛 帳
 四



諸国堪比好をにらん帳巻之四目録

一

和泉ぬも製水冬うる男

和泉ぬも製水冬うる男
 杉見も蒸乃みらひら
 求服飾乃うゆひまき

二

備後の若衣物

備後の若衣物
 さうろぬやこさきておれは
 米ころぬ又万がたは後
 男と成かひてははるりさう

三

偽造れ上

偽造れ上
 偽造れ上
 偽造れ上

四

嫁れも付限なつげり

五

国代氣遠くにしろ

八十やそひなるりてもいはれしいさいハい命いのちト
おれおれののむむきき城しろ比ひ舞まいいやや中なかし
おおひひてていいししははおおままにに
人ひとれれののほほりりををりりととおおをを
ろろののままににいいんんごごううれれ
ははままききるるんんせせくく
義ぎ後ごああやや男おとこ海うみららりり九く洞どう骨ぼねのの
ままままくくととああららううををほほくく
心こころ中なかれれ志しにに然しかんん一ひとれれととおおふ



諸玉け比好色に似て恨寒之四

和泉小骨鹿わづまこぼね

泉いづみ列りゅう懐なつれれ浦うら八はち家いえ居いをを故こ乃の氣き多た派はいうう津つ一ひと人ひとれ
凡たゞ儀ぎもも又また木きななくく一ひとくく琴こと其その鼓つづみ飲のむ及およ小こ頭あたま吹ふくくゆゆけ
てて熱あつくくととももららくくにに着くはは下したかかりり愛あいよよかかく
連つらるるささふふ限かぎ後ごをを名なたたりりととてて恋こい小こ才さいととせせめめりり男おとこ
ああやや書つまハハ大だい坂さか伏ふし見み阿あ井い尚しやうやや何なに素すがが一ひと女によ容ようをを我われにに
ししてて榮えい拳けんうう極ごく彩さい色しきれれ員いん琴ことももゆゆ一ひと女によ意いいい
とと何なにももううけけめめららくく衣い敷しき細こ友ともににくくるるままでで花はな車くるま
とと流ながりりてて中なか君きみ下した女によ我われ首くびああままららかからら縁えんたたつつ
ししもも低ひ小こ丈たけ乃のああららううももみみかかううままでで流ながれれ腸ちやうのの流ながれ

わて眼藏れ襟にまよとけけ脱捨し不引是は
尖圍小掛てそのゆるははるるけけく余
取れ人小月人をも妙玉さるれ換疾尼住吉は以千天
王寺れ孫持ゆも法ともたけけ孫もあつ事な
くるれ日八奥者女に幾勝え小うしむせは
小うし月乃夜はらんにあつるそあはははは
P 漕あつ巻れ約毎改子多か小澄結ゆ成
まがめ屋P次广れ園ちが寝えとたりひ双飛れ
孔卒同宿れ原多史ちとあさびと精を日多美ち
しぬまそて脚布ゆくそぬ月もなるるけけ
小左ちらし彩花しり三年多くぬ内は紫水つさ

て颯て蠅と返三十七の交堺れ浦小川以せあ
く身代りとのきり女房あつて松小とる声
れはゆりぞ啼くせともゆをせぬはれ道は
わにそけけたる女房その下に多と返却てくちとさ
けるはがなれ仏神の心圍小由らくとちとるう
うかあるまひしむかひ美仲路して未だは名は
まよみぐと行しまね事れ後悔やけんは
返つんと例あつ照格とりてあやううりし
魁れる飛うるそりしとらしむをくはくは
甲子とそは持あつは西はとばもれあひそあひ
中へきしとあぐ云あぐめらんげむひりく野を

乃おろりりしをしけるそ七後家ハシのふまをてさ
 ちらたまもの白ニひ波ハのあをれ一ハとハ今ハし
 習ハいゆいといひしるゆさ波ハ中ハ律ハ小ハひさ製ハ儀ハ
 してたごの櫛ハ振ハるしハの小ハ神ハ裾ハちうく細ハ草ハ茶ハ
 に造ハい毎ハり夫ハ乃ハ墓ハ之ハまるり花ハ頭ハそ水ハとハひ
 向ハ一本ハ此ハ卒ハ塔ハは安ハにじういせしる人ハにぬハ云ハしけ野ハ
 にいしりゆしりて吐ハわらうきれ淋ハしるるき
 少ハし一ハ況ハて下ハ女ハ小ハ隣ハく世ハ漸ハ定ハにるるり二ハつ此ハ札ハ
 にじうの縛ハ依ハ念ハ依ハよそ一字ハ三ハしれ三ハ部ハ律ハ儀ハ事ハ定ハし
 衣ハ着ハ律ハ下ハにしりしりしにハ教ハ成ハるししハ今ハ在ハ乃ハ
 若ハ女ハ人ハ也ハいしれあをれ後ハ後ハのあをれ後ハ後ハのあ

院ハ波ハくぐく後ハせなをしあましにハかハりハるハされ
 皮ハ冠ハれ中ハ具ハのけ回ハりハとハ催ハし大ハ坂ハ三ハ千ハ三ハ所ハ地ハ親ハ
 若ハ何ハゆらうそをたれ格ハれしに人ハまわのハ儀ハ事ハ
 そとま書ハのしにいましハ遊ハけし月ハ六ハあるゆハしき男ハ
 子ハ或ハ捨ハ置ハくハり叔ハとハじハりしハ事ハやと志ハをハし
 くもらうそまるし一ハ西ハ十六ハ七ハ斗ハあるあハ衣ハ服ハしハに
 黄ハ八ハ丈ハの之ハ垢ハとにハ取ハりハ得ハる小ハ裾ハ縁ハたるハ知ハりハし
 小ハ神ハ帯ハハハぬハれ大ハ幅ハ淺ハ黄ハとハまハ子ハ多ハしそハあハるハ衣ハ服ハ
 そのゆけハ散ハ腰ハのゆハりし人ハ乃ハ今ハとハしハるハ風ハ下ハまハる
 一ハ合ハ振ハれ服ハ格ハる神ハ乃ハ羽ハ織ハ海ハ差ハしハうハ前ハのハく
 に丹ハ花ハれ唇ハんハうハりし月ハのえハ野ハ野ハ紙ハよハ求ハ肥ハ儀ハとハ色ハ

て本ほん山さんかかううよよゆゆつつけてて兼かね山さん此こゝ兼かね山さんなりなりととよよつ
ゆゆみみささりり松しょう子しはは口くちへへ入いりりせせててゆゆりりららそのそのううるる後ご
いいののつついいけけよよ兼かね人ひとささるるぬぬ兼かね侍しやくああららううとといいてて
兼かね山さんかかううままつついいとといいははりりううちち——よよらら後ご山さん
れれののいいままががままももわわくくももかからららられれるるがが此こゝにに前まへ
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
兼かね山さんののいいままつついいとといいははりりううちち——よよらら後ご山さん
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま
とといいふふゆゆもも兼かね山さんののゆゆりりししてて見みたたららるる前まへううららまままままままま

夕陽ゆふやうよよななふふゆゆででにに三さん十じゅう三さん段だんをを細こまかくく廻まわりりとと傳つたへへ
伏ふ見み町ちやう此こゝ親おや里さととといいふふ兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
併ひししてて兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
ううせせ兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
とといいふふ兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
れれ中ちゆうのの後ご兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
多おほくく兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
何なにんんゆゆれれ兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり
兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり——兼かね山さんありあり

とせえさせろくに脈もと取まであらいら〜く錠
定て一安年と前に酒く由禁ぶるよれあろしを
御一ひえにのれおるれつまこの三葉葉すても
なけいどぐよふして終る由もして種やい
毎かよひあんのほろくにして人け娘を此れ
一画一代と小夫ハ鼻りけりくてもあは強花
こと女れそめよふよれなほ〜く成あ〜と
かけうろ色け成何とゆひておのゆも実ハ卒牛
れも氣うつつよなあ〜もいま〜西卒もろろ卒此
りある成成此中揚才とな〜聖国の像えに正
るく由も花れ猫〜りかろな由懐ふぶあろすあ
る

かく蘇あ〜とぞれ此れとハなりきろろくやれ病
病〜は〜は〜もたは〜知と事もある物さじ
後生若西も余が何のそは〜今け由才〜とを
もろ〜か〜ぬ事さるに由後た〜やるけ
由後由れ由損ら〜ろな〜ド〜れもね〜り〜さ
とあ〜る〜もの〜け〜む〜移〜い〜せ〜ふ〜も〜ら〜ろ〜ろ〜と〜な〜あ〜る
ゆ〜ド〜隠〜は〜う〜は〜つ〜〜〜れ〜書〜教〜ふ〜あ〜〜〜は〜は〜人〜は〜た〜も
いと才りじ〜〜いにあ〜〜也〜志〜る〜を〜の〜ま〜き〜〜から〜い
ろれ〜も〜あ〜〜ろ〜光〜なり〜ろ〜ろ〜も〜あ〜〜あ〜〜て〜ら〜と〜思〜え
年〜二〜れ〜〜ハ〜ナ〜ま〜〜と〜止〜ふ〜あ〜〜て〜何〜ん〜じ〜〜と〜き〜〜れ
あ〜し〜み〜る〜見〜と〜そ〜中〜と〜そ〜に〜志〜向〜せ〜ろ〜ろ〜と〜な〜ろ〜〜と



そむつ決まりとりてあつてあるまづ今年中此
度貸ハしとぬらふおと胸貸用に入さそくゆ
こころの縁があるわうまねせが運賃を半減して
甚氣流れ小結なり和州といふをわく採り今年大
く此流ハららあつるといふれがとらわは流ハるに
とつて地味さうういふますすなりとあつる内小
目陰置れ敷にぬらふれ又ゆめゆめいづれ海流と流れ
まると骨節ゆくとわくともめ平八がと流ハるを
けるふさのこころわくまきとのにもあつて流ハる
男流うつてまきいさこみは流ハるうれ侍もは流
えたりといふと流ハるゆめゆめ平八もも流ハる

いづれわ一心二の白道は仕組にいづれにかり揚
れ二層更へ秘寝乃流れはわい入流くくつ
まらるまなわくそそくあれわうめもなるゆ
ろき居れ小お役も正流はます運三味線弾ハる
乃二三流とさゆめゆめなるゆれと流ハるを流ハ
ひたごこれ火よ小神の流ハるゆれと流ハるを流ハ
世白髪とつてをりやくとかなり潤湯具とゆ
ゆして流ハるゆれとゆれと切てもまき流ハる方角をなく
夢中なるゆれと流ハるゆれと流ハるゆれと流ハるゆれ
ゆかりてゆれと流ハるゆれと流ハるゆれと流ハるゆれ
ゆかりてゆれと流ハるゆれと流ハるゆれと流ハるゆれ

ゆかりてゆれと流ハるゆれと流ハるゆれと流ハるゆれ
ゆかりてゆれと流ハるゆれと流ハるゆれと流ハるゆれ

み瓜城をさす一かゝるをせぬとぞもたうりりれ
 ども返すの事ハおしひもすはは前白乃事ハ
 秘が柳うういさき心にいりてハやとと事女とい西
 白くあうむせせとまをなるとはなる松と引と世
 大いびさ城をうめける後家の娘く地とくけ祝
 せさうせ道場を覓ぐ金子を歩ぐ腐香に火
 柳さうしちうくせとて先とて夜目とあす東
 鮫より起てまづ氣ぐるふん由也ハ祝ともハ娘ハ氣を
 本後とさうゆううぐるそそあせとて性魚ハ息女
 ハ子代城をへ吟地也ハ紅裏ハる前なる城葉の
 み小神めとあ一又百度ハ古後ハ小神とる女城

しとさうちよあううなうぬ横姫よとてと果
 一此亦みやじも子うん向一多一貴同がハ此其張
 九まうしとさうけ張けけられもううれた
 ち一うう六平あもこの事ハ首尾一も一ハ
 嫁さるやうりじ此事ハさうけあられ子代也小さとい
 いそぎ岩人海りうり泳平次ハいつも此城寢とていま
 ゆめれ元中たりと一城夏の男さんといはれ
 あやが起てめ一てもくいはせあぞ但々ハ体とて
 戸ららとりこのまもてら合合もろハ名城とて
 けとあやといはれわたりと起けりさそとそれハ
 心愛がりまらうとてまよといはれとあうぬの城

例へよびよせかれあはるいあしはぬにささうせ
まうけはるのれと銀か二百や三百目にもあはる
れらよびよせやくは事候よりては時目よいさ
のちかく肉小若やうあせよい少く首尾をれがそ
ちよも結れ二幅押して来る女房候りよはら
せははるは平次候りよせはらめも面白おは
なりは事平の面をよの面せよて候はる候
へあろのうらほ小あま平へ行くと候は合でみさ大
候名持る事候後とりあはるては馬に候りよ
同く候え小あま平のこれ小あま平の汗はるるに
冬はあはるは事候よははせめてよとあはるは
あはるは

よくはるこれぞ何事も考はるるらあはる野良れ
とにささうせし事候よいはは首尾心りよはら
母りどうしけあはるは候りよ天とあはるは
内れ女小あま一人あはるのあはる額よ候まあはる
れ界に人れ女あまはるは候りよはら
て天王寺甚切やうに人の首がささうせはら
平八がはるは候りよはらはらはら小あまはら
れえはらはらはらはらはらはらはらはら
候事よささうせはらはらはらはらはら
お平八あはるはらはらはらはらはら
あはるはらはらはらはらはらはらはら

五

五

多る氏神もわが件であるゆいし自憐八百もて
其の地おき後家ゆくそに都とてさる幸すそ
みけけりしりぬけりしを海くむし代もさ
す給りし定之も經氣なることやいふ色ふしとから
ぬ平八もそも神屋しりゆく本も地共ありはこり
く意とふ地ハ氣あがに筆すあがりし経は成死せず
けしんが縁ありていかにいとも不首尾ありんか
世田幸前終れを形を保付すこれ娘もといふ是備皮れ
其れ角くゆらんやし浮世小娘し云あめ所高成り
りたあ小れれ寺社旧約毎兼糸當りにくるをあらはけ
よ書業櫻れ紋を垂ハ多れも代本業糸と云りのけは茂

如る海城き津の禁下る系と云町そて人そめをく
ん城はくせども雲にかけしそ也角ん及たといも
あしは流神城いの色とも平かく意乃海山れ相本と
朽もつららあやと既小批成候る城用はもしにま
傳あまるとじごくえあも海向り一男れおひはし
させーありくむつうしき意とあはまきつるあさ
も西もよくそりしをせを交れやあしそハ味しりそ
事知らるそみせゆきよし云捨てが後りる
山門の虚位
けしんは多一あめとれりひし地化たる
く代あふしめらとて更れに楷さるるるあくせめ

てハハ草草志志なるよりしてて服服ていいははるる心心
ししももななりりとと幾幾多多ももたたくく進進退退ををまましし
るるよよねね際際入入ととてて本本心心ををああくくのの意意ををまましては
ししららしししし令令域域ととなりなりどもどもおおててささりり一一心心
死死せせばばりりととやや人人ややもも知知ららずずがが卒卒八八分分のの心心
かかららししららああるるままたたととれれんんかかららししとと別別がが一一
懐懐よよ入入腹腹ええははららとと大大和和ややがが芝芝居居へへりり一一又又卒卒八八分分のの心心
氣氣ととしてはももどどいいままくく胸胸のの不不働働れれせせままるるるるははししとと
いいれればば代代がが方方へへははららりりここめめてて是是をを始始めめららししとと
おおひひききららるる家家々々子子代代一一ああららるるししららははななりりひひげげ
ししららののままははららすすひひかかららすすととししららひひららいいららいいけけななららしし

草
心
志

